



## 意外と知らない町の施設

10月15日 島内視察から

議員は年に一度全国の先進地を視察し、町の政策に役立つ提言をしています。八丈町の施設については今まで視察をすることはありませんでした。まず足元から知っておくべきではとの議会事務局からの提案で、昨秋から年に一度の島内視察が企画されました。ちなみに昨年は、「学校給食を試食する」というもので、献立の工夫や栄養価などの説明を受けてから試食しました。（新人議員を対象にした処分場視察も実施）

2度目の今年も、議員の要望を入れ、日頃あまり見られない施設をという観点から次の2か所が選ばれ、議員7人が参加しました。

### 旧末吉小学校

2年前に閉校となり、その後の用途が注目されてきましたが、現在のところ主に学生の研修や合宿などに使われています。宿泊のための設備としては、簡易ベッドや二段ベッド、布団、洗濯機2台、冷蔵庫2台などが用意されていました。調理室、更衣室、シャワー室もあり宿泊するには十分だと思いましたが、大学生の評価も高いそうです。ただ、今後宿泊施設として本格的に利用するには、消火器やスプリンクラーの設備のほか避難訓練を実施するなど消防法の基準に適合することが必要で、この点はいまでも議会で指摘されています。



町の担当係長の説明によれば、今年度の利用状況は、大学生のボランティア学習5件、合宿3件（延べ利用人数187人）、そのほかは末吉地区および地域交流サロン（同300人）や三原小学校の地域交流（同158人）に使われていました。学生の利用は夏休みに集中していて、年間を通じた利用には広がっていないように思いました。一方、地域の方々は「しまなみ市」や「交流サロン」で年間利用を進めていますが、いまのところ坂上地区に限られているようです。

旧末小は築20年近くたっているものの、建物はきれいで延べ床面積が大きく、平屋なので開放感があり、これまでの利用以外にも、まだ様々な利用が考えられそうです。現在の利用効果を慎重に評価した上で、島の一層の活性化につながる施設にすべきだと思いました。



### 大賀郷浄水場

旧役場の敷地に7年前に新築された膜ろ過方式（ろ過膜を使って水中の濁りや微生物を取り除く方法）の浄水施設です。9月議会の企業会計決算審議で、6億円以上かけてこの施設をつくった経緯や平成25年度に3400万円かけて膜の交換を行った理由について町とのやり取りがありました。

今回の視察では、5年に1回とされている膜の交換を節約のため6年目に実施し、施設内の32本のろ過装置（8本が4列）のすべてを1本100万円で交換したので3400万円かかったと、あらためて説明がありました（次ページに写真）。

水質検査で人に下痢などを引き起こす原虫が見つかったことから、都の指導に従いこれを除去するための膜

前ページより続く

ろ過方式の浄水方法を採用したという経緯があります。鴨川と小川（湧水）、八戸（井戸）の3ヶ所の水源から集めたものを浄化し、一度護神山にポンプアップしたうえで三根の一部と大賀郷の中心部など、坂下地区の約6割の世帯に供給しているとのことでした。

浄水場の近くで側溝を流れる水の音が大きく、水を無駄にしているのではないかという住民からの指摘があり

ます。これに対しては、この水は1時間に1回行われる膜にたまったゴミを洗い流す行程で出るもので、膜のろ過機能を維持するために必要な作業だとの説明でした。かなりの水圧が必要となるこうした行程などにかかる



電気代は月に50万円、大川浄水場（20万円）の倍以上となっています。ちなみに、八丈町のほかに膜ろ過方式を採用している島は、利島、三宅島、御蔵島です。

八丈島は、水に恵まれていること、こうした浄水行程をへることで各家庭が安心して水を使うことができるということを再認識しました。町に対していっそうの企業努力を求めると同時に、私たちは水を大切に使用していかなければと思いました。

## ホームページ再開しました

さちこのニュースレターも51号となりました。新聞折り込みで皆さんのもとにお届けし、議会の模様をお伝えしてきましたが、これからバックナンバーのすべてがホームページで見られるようになりました。アクセスは、「八丈動物病院」で検索するか、<http://sachiko8.sakura.ne.jp/> で開き、右側の議員のページをクリックしてください。3か月に一回更新していく予定です。

## 学生とおばあちゃんの交流

この夏休み、東洋大3年生の男子学生2人が三根の高齢女性Oさん宅に2週間滞在しました。ここ数年八丈島で様々なアンケート調査をしていた大学や学生たちは、データ収集に協力していた八丈の婦人会と交流が深まっていました。そんな折、東洋大学の教授から八丈で勉強したい学生を受け入れてほしいと打診があったそうです。期間が2週間と長いので受け手が見つからないなか、「できる範囲でなら」とOさんが引き受けました。学生は何でも美味しそうに食べ、進んでお手伝いをしてくれたそうです。昼間は観光協会などで研修をし、夜は老人ホームや末吉地域のお祭りにも参加し手伝いもしました。「また来るから」と言って置いていった東京から持ち込んだ自転車が、八丈島での経験がいかに豊かで楽しいものだったかを物語っています。

今回の受け入れを支えたのは、三根婦人会の多くの方々の協力でした。たびたび届けられる野菜や魚やおかずでとても助かったそうで、これはまさに島の「おすそ分け文化」です。ボランティアで食事などのお世話をすることは、簡単にできることではありません。ただ、一人暮らしのOさんは、「孫のような学生さんが可愛かった、楽しかった」と当時を振り返っていました。こんなおもてなしが島に広がっていけばいいなと思うと同時に、町もこうした活動を積極的に支援してほしいと思いました。



# 2015年9月議会 一般質問



## 1. 「地域おこし協力隊」を利用した町の活性化を

7月に大分県竹田市を視察し、過疎化を食い止め若い世代を呼び込むための様々な取り組みの実態を見てきた。人口規模は異なるものの、参考になる施策がいくつかあったが、その中で「地域おこし協力隊」の活躍がめざましかったので、ぜひ町に取り入れてほしいと思い提案する。町は総合戦略の策定に向け動き出し、住民と町が協力して具体策もいくつか出されている。地域おこし協力隊はこうした事業の実現に貢献するものとする。

### (1) 地域おこし協力隊を導入する考えはないか。

**町** 導入する方向で考えている。総務省の研修会にも参加した。今後人数や役割など検討したい。ただ、スーパーマンではないので過剰な期待は禁物と考える。

**再質問** ぜひ計画をすすめてほしい。特別交付税が措置されるとしても、導入するにはあらかじめ一般財源を確保しておかなければ協力隊は活動できない。来年度に向けての予算措置を。また、受け入れの準備を今年度中に行う決意を。

**町** 来年度導入に向け予算化し、具体策に向け準備を進める。

## 2. 介護保険利用料の自己負担引き上げによる影響はないか

2000年に始まった介護保険制度は、高齢化による利用者の増加により財政負担が重くなっている。制度を維持するために、一定の所得や資産がある高齢者に対し応分の負担をしてもらうとの考えで、この8月から自己負担額が引き上げられる。しかし、急速な負担増は、利用者を圧迫し介護保険を利用しにくくする状況も生まれかねない。町の現状を問う。

### (1) 一定の所得がある場合、利用料が2割負担になる割合はどれくらいか。

**町** 8月現在、約620人が介護認定を受け、うち約500人が利用しているが、個人負担が2割になる方は30人、そのうち利用者は24人で全体の5%となっている。今後も毎月の実績から把握していく。

### (2) 一定の所得の基準は、適正に調べられているか。

**町** 制度改正に対応するシステム改修を行い、税の情報から適正に処理する。

### (3) 介護保険料も利用者の自己負担も上がる状況で、ていねいな説明を。

**町** 介護保険料改定では多くの問い合わせがあった。料金の説明だけでなく制度の理解も得られるよう、広報や老人クラブの会合などで周知していく。

**再質問** 今回の引き上げによって、現在の利用者が利用を控えることのないように対策を考えてほしい。元気で活動されている老人クラブや婦人会の方々への周知も大切だが、まずは利用者へのていねいな説明が必要と思う。

**町** これから始まる地域支援事業および介護サービスの現状や制度について、利用者はもちろんすべての高齢者にわかりやすく説明していく。

## 9月議会 私の発言より

**サマーコンサート** 昨年に続き、第2日曜日の8月9日の午後で開催されたコンサートは、夏の真っ盛りでお盆の前でもあったため観客数は少なかったように思う。毎年出演者が一流の方ばかりで、歌も演奏も素晴らしく多くの方々に聞いてほしいと思うので、夜に開催できないものか。

**町** これまでは子供も参加できる昼と、大人向けの夜の2回開催していたが、入場者が少なかったので1回にした方がいいのではという出演者側からの要請があって今回のようになった。今後、あらためて相談していきたい。

**庁舎内厨房の使用** 庁舎内の厨房は一定の条件を満たせば、住民が利用できるようになった。この施設はもともと災害時の炊き出し用に作られたもので、そのためには常時使ってもらった方が災害時にあわてることなく使用できるので、いいことだと思うが、停電時の対応はどうなっているか。

**町** 停電した場合は常備している発電機を使用する。通常72時間使用できるが、燃料を補給すれば継続して稼働できる。

**プレミアム商品券** 地域経済の活性化を目的に発行された商品券。7月に発売されたが、年金受給者のことも考慮して年金受給月の8月に追加販売になった。しかし、完売にはいたらず9月にも販売してようやく売り切れになった。全国的に2割またはそれ以上のプレミアムを付けた自治体が多いなか、町は1割だった。これに対する住民の不満の声は多く、経済的効果と町の活性化に十分な効果があったとは思えない。町として反省はないか。

**町** 広く多くの方に利用してもらいたいという趣旨で1割とした。結果として完売したし、販売枚数が大島より多く経済効果はあったと考えている。



### 編集後記

10月25日(日)の午後、商工会研修室で「八丈島の戦争」というテーマで講演がありました。資料にもとづいた戦争遺跡の説明と、当時10歳だった女性の疎開体験談でした。私たちが知らない様々なエピソードが語られ、興味深い内容であったという間の2時間でした。戦後70年の節目



に、島の子供たちにも戦争の記憶を語り継いでいかなければならないと思いました。

### 小型バスの評判は？

「空気を運んでいるだけ」の町のバスに対して、住民の批判



が多いことから、町長は試験的に小型バスを導入するとし、今、新しいバスが動いています。

ただ、購入費が2000万円と高額だったことから、議会では「これではこれまでと変わらない、購入時の削減努力が足りない」と指摘されました。町長は、「小型であっても、料金箱、行き先の表示板、手元の押しボタンなどの取り付け工事で高くなった。燃費はいいので、その点で節約できる。」と答えました。

小型でかわいらしい、バリアフリーで乗りやすいとなかなかの好評です。私も一度乗ってみたいと思いました。